

新斎場建設に係る
環境影響評価結果のあらまし

1 環境影響評価項目の設定

新斎場の工事及び供用によって、影響を受ける可能性のある項目について、調査、予測、評価を行いました。

表 環境影響要因と環境要素の関係

環境要素 環境影響要因		生活環境項目					自然環境項目			その他	
		大気汚染	水質汚濁	土壌汚染	騒音	振動	悪臭	動物	植物	景観	電波障害
建設工事			○	○	○	○		○	○	○	
供用時	排出口排出ガス	○					○				
	火葬炉付帯設備				○	○					
	駐車場				○	○		○	○		
	道路交通量の増加	○			○	○					
	敷地内建物		○					○	○	○	○

○：影響調査対象

2 現況調査

- (1) 調査期間：平成 1 5 年 8 月～平成 1 6 年 8 月
- (2) 調査項目：生活環境項目（大気汚染，水質汚濁，土壌汚染，騒音，振動，悪臭）
自然環境項目（植物，動物，景観）
その他（電波障害）
- (3) 調査結果：生活環境項目については，国の基準と比較してほぼ良好な状態にあります。
自然環境項目については，事業予定地内及び周辺において，植物 435 種・哺乳類 10 種・鳥類 68 種・両生類 4 種・爬虫類 6 種・昆虫類 723 種・クモ類 125 種・魚類 10 種の動植物が確認されました。

表 事業予定地内で確認された注目種

区分	注目種数	種名
植物	1 0	・オオチゴユリ ・ニッコウキスゲ ・クロヒナスゲ ・ヒメスゲ ・キンラン ・ササバギンラン ・ミヤマウズラ ・クモキリソウ ・オオバノトンボソウ ・トンボソウ
鳥類	1 5	・チュウサギ ・オオタカ ・サシバ ・チョウゲンボウ ・フクロウ ・ヤマセミ ・カワセミ ・アオゲラ ・アカゲラ ・サンショウクイ ・ルリビタキ ・シロハラ ・ヤブサメ ・オオヨシキリ ・ヤマガラ
両生類	1	・ニホンアカガエル
昆虫類	1 0	・ホンサナエ ・カトリヤンマ ・ハルゼミ ・ミズカマキリ ・シマゲンゴロウ ・ヒラタクワガタ ・ツマグロキチョウ ・コムラサキ ・オオムラサキ ・オオトモエ
魚類	1	・シマドジョウ



オオチゴユリ



オオムラサキ

3 環境保全措置

新斎場の工事中及び供用時において，周辺環境のための対策を講じ，周辺環境に対して極力影響を与えないように努めます。

表 項目ごとの環境保全措置

項目		保全措置
大気	供用時	・ 燃焼による排出ガスは，排出ガス処理設備で処理し有害物質を除去して排出します。 ・ 交通の流れを円滑にし，自動車排出ガスの影響の低減を図ります。
水質	工事中	・ 造成時には，初めに調整池を作り土砂を沈殿除去した後排水します。
	供用時	・ 舗装や緑化により雨水への土砂の混入を抑制します。
土壌	工事中	・ 造成時には事業予定地外への土壌の搬入搬出は最小限に抑制します。
騒音・振動	工事中	・ 低騒音，低振動の建設機械及び工法を選択します。
	供用時	・ 敷地内には，緑地を設け騒音の拡散の低減を図ります。 ・ 走行車両に対し，敷地内の制限速度の遵守を呼びかけます。 ・ 施設内の設備は，騒音・振動の少ない設備機器の選定を行います。
悪臭	供用時	・ 燃焼による排出ガスは，排出ガス処理設備で処理して排出します。
動物・植物	工事中	・ 改変区域周辺に緩衝緑地を設定し，伐採を最小限にし，森林性の動植物の生息・生育環境を保全します。 ・ 調整池は，動植物の多様性に配慮したものとし，生息・生育に配慮した構造とします。 ・ 緑地は，動物の移動経路として利用できるように連続性のある配置とするとともに，できるかぎり事業予定地内の樹林内や草地に生育する低木，実生を利用し，帰化植物の定着や生態系の質の低下を防止します。 ・ 改変区域内で確認された注目種（植物）は，事業予定地内の生育適地に極力移植します。 ・ 進入道路は，動物の移動の支障とならない構造とします。
	供用時	・ 残される緑地や創出される緑地を適正に管理します。 ・ 夜行性の動物保護のため，業務終了後の施設内への車両乗り入れを最小限に抑制します。 ・ 調整池への植物の自然定着を試みます。
景観	工事中 供用時	・ 建物の高さや配色は，周辺環境との調和を図ります。 ・ 建物の周辺には植林を行います。
電波障害	供用時	・ 受信障害が発生した場合は，共同受信施設の設置などにより建物による影響の低減を図ります。

4 評価の概要

(1) 総合評価

環境に及ぼす影響の予測及び評価を行った結果，建設工事中は環境保全措置を実施することにより，周辺環境に与える影響の低減が図られます。さらに供用時にも環境保全措置を継続して実施していくことから，環境を適正な水準に維持することが可能であると評価されます。

(2) 個別評価

ア 大 気

環境保全目標：「予測値が環境基準の達成に支障とならないこと。」

評価内容：排出口からの排出ガス及び自動車からの排出ガスによる影響は，現況と変化は少なく環境基準を満足しています。

評価結果：環境保全目標を満足することができると評価されます。

表 排出口排出ガスによる影響（大気汚染予測結果）

項 目	単 位	現 況 濃 度	将 来 濃 度	環 境 基 準
二酸化窒素	(ppm)	0.020	0.023	0.04
浮遊粒子状物質	(mg/m ³)	0.049	0.049	0.10
ダイオキシン類	(pg-TEQ/m ³)	0.088	0.098	0.6

イ 水 質

環境保全目標：「予測値が環境基準の達成に支障とならないこと。」

評価内容：施設からの生活排水は公共下水道に放流する計画です。雨水については，工事中は調整池で沈砂処理し，河川に放流する計画です。供用時は舗装及び緑化によりさらに濁水の発生は少なくなり，放流先河川の現況水質へ及ぼす影響の低減が図られます。

評価結果：環境保全目標を満足することができると評価されます。

ウ 土 壌 汚 染

環境保全目標：「予測値が環境基準の達成に支障とならないこと。」

評価内容：事業予定地内の土壌に汚染は見られず，工事中も土壌の搬入搬出は極力行わないことから土壌環境への影響はないと判断されます。

評価結果：環境保全目標を満足することができると評価されます。

エ 騒 音

環境保全目標：「騒音の低減が実行可能な範囲で実施され，環境基準及び規制基準が遵守されること。」

評価内容：施設建設時，施設稼働時及び道路交通における騒音は，現況より増加するものの規制基準を満足しています。

評価結果：環境保全目標を満足することができると評価されます。

オ 振 動

環境保全目標：「振動の低減が実行可能な範囲で実施され，または規制規準が遵守されること。」

評価内容：施設建設時，施設稼働時における振動は，現況より増加するものの規制規準を満足しています。道路交通における振動は，道路の整備により低減が見込まれます。

評価結果：環境保全目標を満足することができると評価されます。

カ 悪 臭

環境保全目標：「悪臭の低減が実行可能な範囲で実施され，現況に著しい影響を及ぼさないこと。」

評価内容：将来においても現況と変化はないと判断されます。

評価結果：環境保全目標を達成することができると評価されます。

キ 動物・植物

環境保全目標：「動植物の生息環境への影響を最小限にとどめること。」

評価内容：改変区域の周囲に緩衝緑地を設定し樹林の伐採を最小限にすること，動植物に配慮した調整池を造成すること，改変区域で確認された注目種（植物）の生息適地への移植などにより，影響は概ね回避または低減されと考えられます。

評価結果：環境保全目標を達成することができると評価されます。

ク 景 観

環境保全目標：「現況の樹林の景観が著しく変化しないように配慮し，事業予定地周辺からの眺望の著しい変化を抑えること。」

評価内容：建物の周辺に将来高木層となる樹種を植樹し，建物の配色を周辺環境に調和したものにより，現況の樹林の景観を著しく変化させないと考えられます。

評価結果：環境保全目標を達成することができると評価されます。

ケ 電波障害

環境保全目標：「テレビジョン受信の影響を悪化させないこと。」

評価内容：共同受信施設の設置などにより，建築物の影響を低減することが可能となります。

評価結果：環境保全目標を達成することができると評価されます。

5 評価の確認

今回の総合評価に対しては，工事中や供用時に環境保全目標の達成状況を把握することにより，その整合性を確認していきます。